

タンザニア・ポレポレクラブ

2021年度 事業計画書



タンザニア・ポレポレクラブ

(事務所) 〒 182-0005 東京都調布市東つつじヶ丘 2-39-11 アザレアヒルズ 203

(Tel/Fax) 03-3300-7234、(郵便振込口座) 00150-7-77254

(E-mail) pole2club@gmail.com、(HP) <http://polepoleclub.jp/>

(本 部) 〒 107-0062 東京都港区南青山 6-1-32-103

2021年度 事業計画／予算

【海外事業】



(写真上) サミア・スルフ・ハッサン第 6 代タンザニア大統領。
タンザニアでは史上初、アフリカでは 12 人目となる
女性国家元首（暫定、臨時、代理を含め）となる。

(写真右) サミア大統領が就任早々に組織したコロナ調査専門家
委員会が、「ワクチンは（コロナ対策に）有効」との
結論を大統領に手渡す（現地紙“Nipashe”5月18日版）



概要

2021 年度も新型コロナウイルスによる事業への影響が避けられそうもない。2020 年度と違ってのはワクチンが開発され、多くの国に供給が始まっていることであるが、変異株の出現などまだはっきりと先を見通せる状況にない。タンザニアはサミア新政権が前政権の採ってきた実質的なコロナ無視政策の転換を図っており、2021 年 6 月 4 日、同大統領はワクチン調達と財源確保に関するガイドラインを作成するよう政府に指示を出した。しかしワクチン確保の目処や、同国のコロナに関するデータの公表など具体的な対応はいまだ不明である。一方、政府の設置した専門家委員会は第 3 波襲来の懸念を表明しており、現実となれば政府が国民の行動制限に踏み切る可能性もゼロとは言い切れない。

2021 年度はこれらの状況により大きな影響を受けることになるが、事業計画は現状より悪くならない前提での計画としている。

1. 世界遺産キリマンジャロ山における国立公園の拡大にかかわる問題の解決および旧バッファゾーンの森における地域主体による森林保全・管理の実現に向けた取り組み

(1) 新州知事に対する HAKIMAMA (Harakati ya Mlima Kilimanjaro kwa Mazingira na Maisha) の組織認知
キリマンジャロ州では 2021 年 5 月、アナ・ムグウィラ州知事が定年によるの政府発表により退任し、新たにスティーブン・カガイガイ州知事が就任した。これまでもキリマンジャロ山の森林に沿う 40 村の地域連合である HAKIMAMA は、数度にわたって州知事への面会を求めてきたが、書記官に拒否され州レベルでの組織認知に至っていない。新任州知事は地域住民を苦しめる国立公園の問題を説明できないうちに、キリマンジャロ国立公園公社 (KINAPA) 側に取り込まれてしまうということの繰り返しになっており、2021 年度は国会議員の助力などを取り付け、新州知事と HAKIMAMA の会談を実現し、州レベルでの組織認知に繋げる。

(2) 県議会議長との協力

2020 年度はモシ県知事に対する HAKIMAMA の組織認知を進めることができた。2021 年度は地域住民の声（国立公園拡大の不当性）を県議会で通す準備を進める予定であるが、県議会議員への働きかけや議会で議題として取り上げて貰うため、県議会議長との関係構築に取り組む。

(3) 国会議員との協力関係の継続

キリマンジャロ州選出の 2 名の国会議員との協力を継続し、以下の実現を目指す：

- ① 国会で再度、キリマンジャロ山で拡大された国立公園の不当性について取り上げてもらい、山麓住民にとって生活の一部である里山の森“ハーフマイル・フォレスト・ストリップ（HMFS）”の返還を求めてもらう
- ② 天然資源観光省大臣と同問題を協議し、解決に動くよう促してもらう
- ③ HAKIMAMA の活動資金確保への協力を取り付ける

(4) HAKIMAMA の地域ブロック制の導入

HAKIMAMA への地域ブロック制導入は、現在の限られたリーダーへの過大な負担を避けるためにも必要とされている。2020 年度は地域国家安全保障担当官（Regional Security Officer: RSO）との話し合いが不調に終わったこと及び新型コロナウイルスの影響で各村との協議ができなかったことから導入に動けなかった。一方、選挙により大幅に入れ替わった県議会議員との関係作りが出来つつあり、彼らに各村との調整への協力を得ながら、地域ブロック制の導入に取り組む。

2. 植 林

(1) TEACA (Tanzania Environmental Action Association)

苗畑は TEACA 及び連携しているマヌ、ムシリワ、ロレの 4 苗畑体制を継続し、キリマンジャロ山麓で村人たちと協力し、約 9 千本の植林に取り組む。ただし新型コロナウイルスへの感染防止を図るため、2021 年度も大人数での植林は避け、日程も分散して行うようにする。植林地及び植林目的は基本的に 2020 年度を継承する（表 1）。

表 1【植林実績】

村	本数	植林主力樹種（※）	植林場所
ンガンジョー二村	3,560	AF、CA、CO、SSi、SSp	半乾燥地尾根緑化
テマ村	4,640	CL、CO、CMe、GR、ML、MR、PP、TE	道路法面強化、教会敷地
マヌ村	1,100	PP	裸地尾根森林再生
合 計	9,300		

※ AF=Acrocarpus Fraxinifolius（マメ科）、CA=Cordia Abyssinica（ムラサキ科）、CC=Calliandra Calothyris（マメ科）、CL=Cupressus Lustanica（ヒノキ科）、CMe=Croton Megalocarpus（トウダイグサ科）、CO=Cedrela Odorata（センダン科）、GR=Grevillea Robusta（ヤマモガシ科）、ML=Markhamie Lutea（ノウゼンカズラ科）、MR=Mitragyna rubrostipulata（アカネ科）、PP=Pinus Patula（マツ科）、SSi=Senna Siamea（マメ科）、SSp=Sesbania Spectabilis（マメ科）、TE=Trichilia Emetica（センダン科）

(2) HAKIMAMA (Harakati ya Mlima Kilimanjaro kwa Mazingira na Maisha)

HAKIMAMA については森林沿いの各村で苗畑の展開を進めたいとの意見もあるが、2021 年度は南山麓キボショ地域でごく小規模の育苗（500 本程度）に取り組むにとどめ、同地域で植林を実施する。各村での苗畑展開は将来の課題として視野に入れるが、今後キリマンジャロ山での環境保全活動は、植林で長い実績と経験蓄積のある TEACA と、広域展開で強みを持つ HAKIMAMA が連携、協業できることが望ましいと考えている。そこで 2021 年度は TEACA から HAKIMAMA への苗木供給を検討し、実現を目指したい。

(3) 「ミツバチの森」づくり

TEACA 苗畑で「ミツバチの森」づくりに備えた蜜源樹（*Cordia Abyssinica*、*Evodia Hemsley*）の育苗に取り組む。初年度は 2,000 本の育苗を目指す。ただし前者は種子調達、後者は発芽技術に難があり、達成のハードルはかなり高い（植林は 2022 年度）。「ミツバチの森」づくりは当面村内および HMFS と村の境界で取り組んでいく予定であるが、将来 HMFS が返還された場合、そこでの重点的な取り組みとなっていく可能性がある。したがって今から安定的な種子調達方法、発芽技術の目処を立てておくことが重要となってくる。



かつて政府が行った商業伐採のため、丸裸となった HMFS。

3. 養 蜂

2020 年度に完成できなかった標準養蜂箱の設計を完成させ、10 箱を設置する。ただしロレ村では体調を崩している者が多くいるため、10 箱のうち 6 箱を同村の養蜂グループへ、残る 4 箱は養蜂拡大のためテマ村に新たな養蜂グループを立ち上げ、スタートアップ用として導入する。両グループにはタンガ州の養蜂 NGO での養蜂研修を実施するが、ロレ村の状況次第では、テマ村の養蜂グループのみを対象として実施する。

また「ミツバチの森」が形成されるまでにはかなりの時間が必要（最低 6 年）とされるため、速効性のある草本類での蜜源環境整備にも取り組む。2021 年度は TEACA 事務所および裁縫教室（寄宿舍）敷地に 1 年生草本を植え、どの程度ミツバチを誘引できるか効果を観察する。

4. 養 鶏

キリマンジャロ山では国立公園が拡大された結果、山麓住民は彼らの里山の森“HMFS”を利用できなくなった。その結果、家計収入を支えてきたコーヒー栽培に必要な伝統水路を放棄せざるを得なくなり、また森で飼料を十分に確保できなくなったことから、重要な副収入源である牛乳をもたらしていた家畜（牛）の保有頭数も減らさざるを得なくなった。加えて牛は畑の地力を保つ牛糞の確保に極めて重要な存在であったことから、村人たちは畑の生産性を維持することが困難となっている。国立公園に里山の森を取り込んだことは、このように二重、三重の困難となって村人たちを打ちのめしている。

当会はそうした村人たちが少しでも収入を確保していけるよう養蜂に取り組んでいるが、それ以外にも収入確保の手段を確保していく必要がある。なかでも養鶏は、過去のグループ積み立てによる養鶏支援の実績などから、家計収入の向上に寄与できる貴重なポテンシャルを持っていると考えている。

養鶏で収益を出せるかは、優良種の導入と給餌量及び栄養バランスの適切な管理ができるかにかかっている。養鶏で広く村人たちを裨益していくためには、彼らに対応可能かつ収益を出せる適切な飼料の種類、量、配分比率がどこにあるかを把握し、啓蒙していく必要がある。

そこで 2021 年度は、そのデータ取得を目的として、キリマンジャロ山麓テマ村で 30 羽程度の飼育規模で試験養鶏を行うこととする（データ取得には 2 年程度の試験継続が必要）。

5. 改良カマド

TEACA 裁縫教室の寄宿生用の調理小屋の傷みが激しく、小屋の改修に併せて改良カマドを新設する。一方、普及を図っていたロレ村では、普及を牽引していたリーダーやグループメンバーの体調不良から活動を抑えざるを得なくなっている。2021 年度の同村での設置（10 基）については様子を見ながら実施可否を検討する。無理そうな場合は、他村での設置を検討する。

6. TEACA 裁縫教室

新型コロナウイルスの影響による家計収入への影響は当面続くと思われ、生徒の確保が難しい状況が続く。そのため広報力強化のため、以下に取り組む。

- (1) 広報支援ツールとしてパンフレットを作成しホームページを立ち上げる。
- (2) 教育支援を行っている教会や NGO との連携を検討する。
- (3) 遠隔地での説明会計画を作成し、これを毎年ルーチン化できるようにする。

また現在各教師による授業進捗の全体での把握に課題を抱えており、これに合わせた裁縫教室全体のスケジュール管理が困難となっている。このため掲示式の管理表による授業進捗の可視化を図り、教師全体で容易に共有できるようにする。

7. テマ診療所支援

県政府による薬剤への予算執行がどうなるか次第で、再び診療所が薬剤不足に陥る懸念がある。このため 2021 年度も薬剤支援に備えておく。県による予算が順調に執行された場合は、現在村で建設を進めている診療所の付帯施設（医師、スタッフ用住居）への支援を行う。

また政府の許可が得られれば、診療所での毎月の薬剤使用量を把握するためのデータを作成する。



テマ診療所で医師、スタッフ用の住居建設のために、村人たちによって土地の造成が進められている。写真の上部にテマ診療所が写っている。

8. 学校への文具支援

2020 年度に実施したオリモ小学校全校生徒へのノート、筆記具の支援を継続する。ただし同校からは教師用の教材不足が厳しいとの説明を受けており、いずれの支援を優先するかは学校側と再度話し合ったうえで決定する。

【国内事業】

概 要

海外事業と同様に、国内事業でも新型コロナウイルスの影響によるダメージが大きい。国際協カイベントをはじめ「ぼれぼれ Cafe」も開催できず、ボランティアさんにいらしていただくこともほぼできなくなっている。こうした機会が失われていることは、活動の広報や会員の獲得、収入機会の減少に直接響いており、会の活動維持にとっても極めて厳しい状況となっている。

インターネット利用によるセミナーや交流といった方法も盛んに用いられているが、当会はノウハウ不足で活用できずにいる。2021 年度はこうした分野に少しでもチャレンジしていきたいと考えている。

1. ニュースレター

2021 年度は年 3 回の発行を予定する。また現地入りが可能な場合、現場から直近の取り組み状況を伝えるハガキ通信を継続する。

2. ウェビナー開催

ワクチン接種が広く行われるまで「グローバルフェスタ」等、入場者数管理の難しいイベントの再開、出展は厳しいと思われる。このため、当会の活動ないしキリマンジャロ山での国立公園も問題を知ってもらうためのインターネット利用によるウェビナーの開催を検討する。これまで経験がないため、まずは実現することを目標とする。

3. ホームページのリニューアル

新ホームページはページ作成はほぼ終わっているが、表示上のトラブルやプラグインアプリケーションが正常に機能しないといった技術上の問題およびセキュリティ対策が課題として残っている。これらを解決し、2021 年度中の公開を目指す。

また TEACA 裁縫教室のホームページ開設にあたっては、現地での情報更新の困難さがあり、当会ホームページに別ページを設けて対応することも考える。

4. その他

- (1) 養蜂に対する助言を得ていくため、日本国内の養蜂家との関係作りに取り組む。可能であれば村で採れたハチミツの成分分析を依頼する。
- (2) 日本国内の教会と国内活動ないしキリマンジャロ山麓の教会との関係作りができないか検討する。
- (3) 収入機会ともなっていた国際協カイベントが新型コロナウイルスのために開催できなくなっていることもあり、あらたな収入機会を探すことがますます重要となっている。そこでタンザニア物品のインターネットによる販売ができないかを検討する。
- (4) 新型コロナウイルスにより現地渡航が困難となっていることも合わせ、現地との通信費（電話代）が重い負担となってきている。タンザニア（村）側のインターネット環境が整っていないことからやむを得ない状況もあるが、インターネット環境を整える支援をしてでも、長い目で見た場合にコスト削減に繋がる可能性が大きく、その対応の是非を検討する。



タンザニア・ポレポレクラブ

(事務所) 〒182-0005 東京都調布布東つつじヶ丘 2-39-11 アザレアヒルズ 203

(Tel/Fax) 03-3300-7234、(郵便振込口座) 00150-7-77254

(E-mail) pole2club@gmail.com、(HP) <http://polepoleclub.jp/>

(本 部) 〒107-0062 東京都港区南青山 6-1-32-103